

外部パネリスト

●半田 昌之氏（公益財団法人日本博物館協会専務理事）

1954年神奈川県鎌倉市生まれ。78年たばこと塩の博物館に学芸員として入職。主席学芸員として学芸部長を務め、2011年に日本博物館協会専務理事に就任し、ICOM日本委員会事務局長を兼務。文化審議会博物館部会臨時委員として博物館法改正に携わる。現在は同文化施設部会臨時委員。24年から全日本博物館学会会長。「日本の博物館制度の行方」（日本博物館協会「博物館研究」連載）、『博物館学史事典』『～企業博物館論史～』（雄山閣・共著）ほか。

●杉本 康雄氏（一般財団法人棟方志功記念館理事長）

1947年青森県三沢市生まれ。69年に株式会社弘前相互銀行に入行。みちのく銀行代表取締役頭取、代表取締役会長を歴任。2015年から25年まで青森県立美術館館長を務める。在任中に、青森県内の5つのアートミュージアム（青森県立美術館、国際芸術センター青森、弘前れんが倉庫美術館、八戸市美術館、十和田市現代美術館）が連携する青森アートミュージアム5館連携協議会会長を務める。25年6月、現職に就任。

●内澤 稲子氏（フリーライター・編集者）

1960年岩手県軽米町生まれ、盛岡市育ち。84年岩手日報社入社。88年からフリー、おもにコピーライター・ライター・プランナーとして活動。2006年、編集長として北東北エリアマガジン『rakra（ラ・クラ）』を創刊し、のちに編集顧問。創刊100号記念号（20年5・6月号）を最後に編集顧問は退任。以後も、ライター・校閲者として参加。フリーのライター・エディター・プランナーとしての活動を継続するかたわら、ラヂオ・もりおか「ネコの部屋」パーソナリティ、毎日新聞コラム「とうほく彩発見」連載中。

コーディネーター

●本村 健太氏（岩手大学人文社会科学部 教授）

1968年熊本県八代市生まれ。96年筑波大学大学院博士課程芸術学研究科修了、博士（芸術学）。近代デザインの基礎を築いたドイツの造形芸術学校バウハウスを研究の対象とし、デザイン思考を生かして地域課題に取り組んでいる。2006-10年、盛岡市子ども科学館にてヴィジュアル・ジョッキーイベントの企画実施。13年・15年、盛岡市の旧石井県令邸にて展覧会企画、作品展示。23年、「アジアデジタルアート大賞展」の「A.I.アートアワード」受賞。岩手県文化芸術振興審議会委員（～24年）、盛岡市芸術文化推進審議会委員。

岩手県文化振興事業団

●長内 努（岩手県立美術館長）

1958年岩手県盛岡市生まれ。岩手県の公立高等学校教員を経て、もりおか町家物語館館長、岩手大学教育学部特命教授を務める。2025年4月、県立美術館長に就任。彫刻家、舞台美術家として多様な表現活動をしている。

●坂本 美知治（岩手県立博物館長）

1964年岩手県金ケ崎町生まれ。岩手県の公立高等学校教員、県教育委員会事務局勤務を経て、県立盛岡第一高等学校副校長、県立北上翔南高等学校校長、県立高田高等学校校長、県教育委員会事務局教育次長を務める。2025年4月、県立博物館長に就任。

〈関連事業のご案内〉

岩手県文化振興事業団創立40周年記念企画展

記憶と脱皮

— 事業団のこれまでとこれから

とき 2025 8/21(木)▶27(水) ところ トーサイクラシックホール岩手(県民会館)展示室
| 展示説明会 | 8/23(金) 13:30～(1時間程度)

入場
無料

開場時間／9:30-18:00(最終入場17:40) 最終日は15:00まで(最終入場14:40)